

圓教寺食堂

食堂は大講堂と常行堂と繋がっており、圓教寺の三つの堂として知られる三つの建物の西側を形成している。歴史的に、食堂は僧侶が修行し、寝て、食事をする居住空間であった。

この場所の最初の建物の建設は、後白河法皇（1127-1192）の勅願により 1174 年に始まった。いくつかの自然災害により、元の建物やその後に建てられた建物も倒壊した。現在の建物は 15 世紀半ばに着工されたが、日本最大の 2 階建て建築で、その規模が大きく複雑であることが理由で、完成が遅れた。結局、食堂は約 5 世紀にわたって未完成のままであった。その 2 階部分は大規模なリノベーション計画の一環として 1963 年に完成した。その長い建設過程により、いくつかの建築上の手違いが生じた。たとえば、2 階の南東角の屋根は常行堂の屋根にぶつかっており、これは 2 階の露台からはっきりと見える。

現在、食堂の 1 階は訪問者が功德を積む修行の写経を行う場所として主に利用されている。2 階には、圓教寺の長く豊かな歴史に光を当てた数多くの宗教的および文化的な遺産が展示されている。その中には、14 世紀に製作され、悟りへの揺るぎない願いを象徴する金剛薩埵（サンスクリット語：ヴァジュラサットヴァ）像がある。

食堂は国の重要文化財、金剛薩埵像は兵庫県の重要文化財である。